

THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 219)

発行日：平成27年9月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「資金繰りとキャッシュフロー②」・・・資金繰りの重要性

前回から、「資金繰りとキャッシュフロー」というテーマの特集を開始しました。会社は、存続と発展のためには、利益を稼ぐことが必要です。しかし、利益を出しながらも倒産してしまう会社があります。なぜなのでしょう？
今回も黒字倒産の例を紹介し、資金繰りの重要性について考えてみたいと思います。

身近な事例で考えてみよう！・・・前回の続き

前回の本誌では、以下のような質問をしました。

質問1

8月31日に、あなたは、香港に買い物に行きました。手元には60万円持っています。
9月1日に、1本30万円のロレックスをクレジットカードで5本買いました。
9月15日に、帰国して友人5人に1本50万円で現金（即金）で販売しました。
9月30日に、クレジットカードの引き落としがありました。

この場合の「売上」「売上原価」「売上総利益」はいくらでしょうか？
また、実際の手元のお金が変わるのはいつ、いくらでしょうか？

質問2

8月31日に、あなたは、香港に買い物に行きました。手元には60万円持っています。
9月1日に、1本30万円のロレックスをクレジットカードで5本買いました。
9月15日に、帰国して友人にPRしたところ、1本だけが50万円で現金（即金）で販売できました。（ただし、残り4本は、まだ手元にあります）
9月30日に、クレジットカードの引き落としがありました。

この場合の「売上」「売上原価」「売上総利益」はいくらでしょうか？
また、実際の手元のお金が変わるのはいつ、いくらでしょうか？

質問3

8月31日に、あなたは、香港に買い物に行きました。手元には60万円持っています。
9月1日に、1本30万円のロレックスをクレジットカードで5本買いました。
9月15日に、帰国して友人にPRしたところ、5人に1本50万円で販売することができました。
但し今回は、ツケ払いで入金は10月10日になります。
9月30日に、クレジットカードの引き落としがありました。

この場合の「売上」「売上原価」「売上総利益」はいくらでしょうか？
また、実際の手元のお金が変わるのはいつ、いくらでしょうか？

質問1、2、3ともに、利益は全て黒字でした。
しかしながら、質問2、3は、9月30日の段階で、手元の現金がマイナスになり、「倒産」してしまいました。

・・・詳細は前回の本誌または、以下のURL参照。
<http://www.thanksmind.co.jp/no218.pdf>

さて、もう1問、同じように考えてください。

質問4

8月31日に、あなたは、香港に買い物に行きました。手元には60万円持っています。
9月1日に、1本30万円のロレックスをクレジットカードで5本買いました。
9月15日に、帰国して友人にPRしたところ、5人に1本50万円で販売することができました。
今回もツケ払いですが、友人と交渉した結果、入金は9月25日になりました。
「あー良かった。ホッとしました。これで、これまで欲しかった物が買える！」
9月25日に、友人から入金がありました。
9月28日に、50万円の高級大型薄型テレビ（4Kテレビ）を月末一括払いで買いました。
9月29日に、120万円の軽自動車を、やはり月末一括払いで買いました。
9月30日に、買い物分を振り込み、またクレジットカードの引き落としがありました。

この場合の「売上」「売上原価」「売上総利益」はいくらでしょうか？
また、「販売管理費」「営業利益」はいくらでしょうか？

売上高	250万円	(50万円×5本)
売上原価	150万円	(30万円×5本)
売上総利益	100万円	

ここまでは問題ないでしょう。
それでは、営業利益は？

売上高	250万円	(50万円×5本)
売上原価	150万円	(30万円×5本)
売上総利益	100万円	
販売管理費	170万円	(車と自動車分)
営業利益	△70万円	

・・・と思った方はいませんか？
 ここで、注意しなければならないのは、テレビと自動車の分です。
 合計の170万円は、「販売管理費」として計上できません。
 なぜならば、「費用とは、1年間の売上・利益を上げるために使ったお金」のことだから。
 テレビや自動車は、1年後に捨てることはありませんよね。
 1年だけではなく、その後何年も使うために買ったものです。
 こうした、お金の使い方のことを「投資」と言います。
 ただし、「投資」したもので、未来永劫そのまま使い続けることはできません。
 当然、使っていればその分、古くなり価値は目減りして行きますから。
 そうした1年分の目減り分を計算して、費用にすることが「減価償却」という仕組みなのです。

※この点については、本誌の184号で詳細に説明しています。

以下のサイトを参照ください。

<http://www.thanksmind.co.jp/no184.pdf>

減価償却費は、取得金額÷年数（法定耐用年数）で計算します。
 仮に、テレビと自動車の年数が5年だとしたら、減価償却費は以下のようになります。

$$(50万円 + 120万円) \div 5年 = 34万円$$

※購入してから1年経過したことが前提です。

従って、今回の問題に関する販売管理費と営業利益は以下のようになります。

売上高	250万円	(50万円×5本)
売上原価	150万円	(30万円×5本)
売上総利益	100万円	
販売管理費	34万円	(車と自動車分の減価償却費)
営業利益	66万円	

次に、質問1と同様に、お金の出入りを考えてみましょう。
 実際に手元のお金（持ち金）が変わるのは、いつ、いくらでしょうか？

		持ち金	
8月31日		60万円	
9月25日	入金 250万円	310万円	・・・販売した代金
9月30日	出金 320万円	△10万円	・・・買い物の振込みとクレジットカードの引き落とし

やはり、9月30日に倒産してしまいました。
 今回の原因は、気が大きくなって買い物し過ぎたことですが、正確に言えば「過剰投資」。
 上記の通り、損益計算書の費用は、減価償却分しか計上されません。
 従って、利益は出ている計算になります。
 しかし、実際のお金の払いは別物。
 費用であろうが、投資であろうが、購入したものについては「全額」支払わなければならないので、そのためのお金が不足してしまったのです。

なぜ、会社は倒産するのか？

これまでのことをまとめると、以下の通りになります。

「倒産」とは、払うべきお金を払えなくなってしまった状態
⇒ いくら損益計算書で利益が出ていても、倒産することがある！
＝黒字倒産！！

その理由は、「損益計算書の収益／費用と、実際の現金の入金／出金とはズレがある」からです。

例えば・・・

- 1) 売上高は、売上債権（売掛金、受取手形）になっている限りは、実際には入金されません。
- 2) 売上原価は、買掛債務（買掛金、支払手形）になっている限りは、実際には出金されません。
- 3) 売上原価は、販売した分だけが計上されます。
従って、在庫になっている分は未計上ですが、在庫分もお金は払います。
- 4) 減価償却費は、毎年1年分のみ計上されますが、実際には、購入した年は、全額を一括で支払っています。また、翌年からは出金はありません。
- 5) 水道光熱費や通信費は、使った分だけその月に計上されますが、実際の支払は翌月以降になります。従って、期をまたぐと、費用と出金にズレが生じます。
- 6) 消耗品はツケで購入した場合、費用は買った月に計上されますが、実際の支払は翌月以降になります。従って、期をまたぐと、費用と出金にズレが生じます。
- 7) 法人税や消費税等の税金は、その年の損益計算書に計上されますが、実際の支払は、翌年になる分もあります。

「勘定合って銭足らず」

昔から、良く言われることです。

損益計算書が黒字でも、実際にはお金が不足してしまい倒産・・・

そうならないために、「資金繰り」が重要なのです。

「資金繰り」とは、いついくら実際にお金が入ってくるのか、
また、出て行くのかをしっかりと管理し、
常に、払うべき時に払える状況にしておくこと

これは、経営者にとって、利益の確保とは全く別の課題として考えるべきことなのです。

＜次回に続く＞